

平成 29 年度 長崎市自然環境調査報告書：水生生物

長崎市自然環境調査委員 深川 元太郎

《平成 29 年 2 月～平成 30 年 1 月》

昨年度の報告書になかった平成 29 年 2 月、3 月分も今回掲載しています。

○琴海地区河川のシロウオ遡上確認調査：2 月 18 日

9 河川で調査を実施しました。確認したシロウオは、その場ですぐに放流しています。

- ・琴海大平町 大平川：シロウオの遡上は確認できませんでしたが、ウキゴリ、ヌマチチブの RDL 種は確認する事ができました。
- ・琴海大平町 大江川：シロウオの遡上を確認しました。本河川では初記録です。本種以外では、カワスナガニを確認することができました。
- ・琴海形上町 四戸ノ川：シロウオの遡上を確認しました。国道橋の一つ上の橋付近で確認しました。
- ・琴海形上町 大子川：シロウオの遡上を確認しました。本種以外ではマサゴハゼ、ピリンゴ、ミナミメダカなどを確認しています。
- ・長浦町 手崎川：シロウオの遡上を確認しました。例年四つ手網が設置されていたが、本年度は漁を確認することができませんでした。
- ・長浦町 長浦川：シロウオの遡上は確認できませんでした。水色が淡褐色を呈しており、水質がよくない印象を受けています。
- ・長浦町 戸根原川：シロウオの遡上を確認しました。浄化センター放流口より上流側で確認しています。
- ・琴海戸根町 戸根川：シロウオの遡上を確認しました。今回の調査河川の中で最も多い印象でした。
- ・西海町 中川内川：シロウオの遡上を確認しました。遡上数はあまり多くないようです。



大平川



大江川



大江川のシロウオ



四戸ノ川



四戸ノ川のシロウオ



太子川



太子川のシロウオ



手崎川



手崎川のシロウオ



長浦川



長浦川(水色が淡褐色を呈している)



戸根原川



戸根原川のシロウオ(左はチチブ)



戸根川



戸根川のシロウオ



中川内川



中川内川のシロウオ

○四杖町 あぐりの丘内ため池：3月11日

あぐりの丘第1駐車場下(あぐりの丘高原ホテル入口右側)に位置するため池の流入部でタモ網を用いて調査を実施しました。確認種は、コイ、ブルーギル、ミナミメダカ、サカマキガイ、アカハライモリ、マツモムシ、ギンヤンマ幼虫などです。中でもブルーギルの確認個体数は多く、コイと共に本ため池の優占的な種であると考えられます。また、ミナミメダカは本ため池もしくは上流部へ人為的に持ち込まれた可能性が高いと思われます。確認場所がため池のごく浅瀬にかたまっていたことから、ブルーギルからの逃避行動と考えられます。なお、アカハライモリ、マツモムシ、ギンヤンマ幼虫は、それぞれ1個体のみの確認で、確認場所も流入河川部であり、ため池内では確認できていません。



ため池の状況



ため池流入部



ため池流入河川



ミナミメダカ



ブルーギル



コイ

○長崎市いこいの里あぐりの丘：4月1、9、15、22、23日

本地域の湿地内において水生動物類及び陸上昆虫類の調査を実施しました。調査は、1、15日に見崎町付近、9、22日にあぐりの丘一帯、23日に馬乗川平休耕田で行っています。確認種は、淡水貝類4種、顎脚・甲殻類13種、昆虫類(陸上昆虫類含む)391種、魚類3種、その他14種の計425種でした。1月から本地域の調査を行っていますが、これまで約700種が確認されており、そのうち4月の調査だけで約60%の種が確認できている事になります。今後夏場にかけて昆虫類の発生が多くなるため更に追加される種が出てくるものと思われます。今回、県内で初記録と思われるヘラコチビミズムシ(九州でも2例目)が馬乗川平休耕田で確認されましたが、本種はどちらかといえば流水性の種であり、休耕田内の一部が止水性ではなくなっているようです。

○長崎半島の止水域：5月28日

長崎市レッドデータリスト(以下：RDLと省略)掲載種のマルヒラタガムシ、クロゲンゴロウなどの水生昆虫類の生息状況確認を行うと共に好湿地性昆虫類の把握を行いました。その結果、前述の2種以外にコオイムシ、ヒラマキガイモドキ、ヒラマキミズマイマイ、カスミサンショウウオ、ドジョウ、オオマルケシゲンゴロウを再確認することができました。好湿地性昆虫類では、ジュンサイハムシ、イチゴハムシ、トゲヒシバツタが多産する状況です。昨年に比べ、流入側で堆積による陸地化(遷移)が進んでいる印象を受けています。



ヒメマルミズムシ



マルヒラタガムシ



コオイムシ

○長浦町浦ノ谷(瀬)、琴海尾戸町塩垂島：6月10日

本年度の無人島調査(七百島と塩垂島)を6月に実施しました。なお、水生生物調査においては、調査予定の七百島で行わず、本島南側に位置する瀬(長浦町浦ノ谷沖合)で実施しています。確認種は、浦ノ谷(瀬)で36種、塩垂島で48種であり、両場所を合わせて67種でした。本市RDL掲載種は、ツボミ(死殻)、コゲツノブエ(死殻)、カヤノミカニモリ、ウミニナ、ムシロガイ(死殻)、ハボウキガイ、クチバガイ(死殻)、ウネナシトマヤガイ(死殻)、ケマンガイ(死殻)の計9種で、全て貝類でした。死殻のみの確認種でしたが、古いものではなく、比較的新しい死殻であることから、調査場所周辺に生貝が現在も生息しているものと思われます。なお、浦ノ谷(瀬)は、干出部では、貝殻と礫の堆積部となっていますが、立ち入ることができた水没部では岩盤と転石となっており、砂や泥といった潟地を確認できませんでした。また、塩垂島近くの又兵衛港では、シロウミアメンボ、シオアメンボ、ケシウミアメンボといったウミアメンボ類が確認されていますが、今回、本島では確認する事ができませんでした。



長浦町浦ノ谷(瀬)



アカオビシマハゼ



カヤノミカニモリ



アコヤガイ



琴海尾戸町 塩垂島



コシマガリモエビ



アカシマモエビ



ハボウキガイ



クジメ



アオウミウシ

○西海町(榎ノ久保湿地)、新牧野町(湿地)、長浦町(長浦岳北部湿地)、琴海形上町(市境の湿地・溜池)：7月22日

今年度もハッチョウトンボの生息状況の確認調査を実施しました。実施した場所は、過去に記録・情報のある西海町、長浦町、琴海形上町の3カ所と本種未記録ですが、良好な環境と思われる新牧野町の計4ヶ所で行いました。なお、昨年度実施した琴海形上町の湿地は、横を通過する道路が工事中であったため、駐車スペースが取れず、今回実施していません。結果は、どの場所でもハッチョウトンボの生息を確認することができませんでした。この数年間調査を実施していますが、確認できていないことから、これらの場所では絶滅してしまった可能性が高いと考えられます。市内で新たな生息地が見つからない限り、市内の生息は絶望的な状況です。本種以外では、ヒラマキガイモドキ、コオイムシ、ヒメミズスマシ、ホ

ソクロマメゲンゴロウ、スジヒラタガムシなどの RDL 掲載種が確認されました。



西海町の湿地



新牧野町の湿地



長浦町の湿地



琴海形上町の湿地



キイトンボ



モノサシトンボ



モウセンゴケ



タゴガエル



ホソバセセリ

○高浜町（江川川下流一帯）：8月15日

旧三和町高浜地区を流下する江川川下流部を中心に汽水上限付近、周辺の用水路や水溜りで調査を実施しました。江川川下流部では、ゴクラクハゼ、ミナミテナガエビ、ミゾレヌマエビ、ヒメヌマエビ、モクズガニなどが多く確認されました。また、全長 30cm を超えるニホンウナギも 4 個体確認できています（確認後、現地放流）。汽水上限付近（魚道直下）では、今回初確認となるタケノコカワニナが、局所的ながら多数確認できました。確認した個体は全て小型個体であったことから、定着して間もない（数年前？）と考えられます。周辺の水田脇にできた水溜りから 4 個体のチビゲンゴロウに混ざって、アンピンチビゲンゴロウが 1 個体確認されました。本種は、南西諸島に分布しますが近年九州でも採集例が複数あるようです。長崎県では平戸市に次ぐ 2 例目の記録となります。本種は環境省レッドリストの情報不足の指定を受けており、今後も動向を注視していく予定です。



江川川下流部



ニホンウナギ



ゴクラクハゼ



ミナミテナガエビ



タケノコカワニナ



アンピンチビゲンゴロウ

○神浦川神浦ダム支流流入上流部（神浦扇山町）：9月24日

神浦川ダム支流流入上流部において水生昆虫類を中心とした調査を行ないました。また、もう一つの流入部である神浦川ダム本流流入上流部（深山橋上流部）でも同様の調査を実施しました。結果は、川床の石などに付着・固着して生息するカワゲラ類、カゲロウ類、トビケラ類が本流と比べ少ない状況でした。なお、支流部には、ダム直上に滝があり、ダムと河川を行き来するヨシノボリ類2種、カワリヌマエビ属が以前から生息していません。また、カワムツも以前より非常に少ない場所であったため、今回も確認できませんでした。一方、移動能力が水生昆虫類よりも高いと思われるサワガニは当歳を中心に両地点とも多く確認されています。



支流ダム流入上流部(9/18)



本流ダム流入部(9/18)



支流ダム流入上流部(9/18)ムカントンボ幼虫

○長崎半島の止水域：10月27日

5月に実施した場所と同じ止水域で、水生昆虫類を中心とし、周辺の陸上昆虫を併せた調査を実施しました。既知種で、コオイムシ、コガタノゲンゴロウ、ヒラマキガイモドキ、ドジョウなどが健在していることを確認しました。また、マダラケシカタビロアメンボとオモナガコミズムシは、長崎市では初記録となります。県内においても記録がないようですが、

更なる文献調査が必要です。これまで確認されなかった要因として、微小種であるため見過ごしてきたこと、分類学的知見が乏しかったことが考えられます。今回の調査で、この場所ではこれまでの知見と併せ 293 種が確認されていますが、陸上昆虫類を中心に多くの種が、今後本地域で確認される可能性が高いと考えています。今後も本地点を含めた周辺地域の情報集積に努めていく予定です。



調査地



マダラケシカタビロアメンボ



ヒメマルミズムシ



オモナガコミズムシ 全形



オモナガコミズムシ ♂頭部正面



オモナガコミズムシ ♂前脚心節pala



コガシラミズムシ

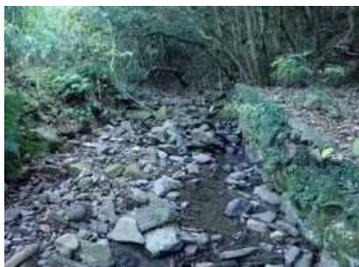


ブロンズクビナガゴミムシ

○式見川支流(牧野町)、鹿尾川汽水(三和町)、小江川汽水(小江町)：11月12日

角力灘に面する3河川で調査を実施しました。式見川支流は、式見ダム下流右岸側に流入する河川で、樹木等に覆われている場所が多く、日中でも暗い環境の場所となっています。調査は式見川合流点の約50m上流で実施しました。確認種は、水量が少なかったためか、テナガエビ類を中心に8種のみでした。式見川本流でよく見かけるカワムツも今回確認できていません。鹿尾川汽水域は、河川改修後では初めての調査となります。汽水上限に魚道がある落差工となっており、以前に比べ大幅に変更されています。確認種は、魚道の上でアユ、シマヨシノボリ、ミナミテナガエビなどを確認できたことから、これらの種にとって魚道は有効に作用しているようです。一方、この一帯で多くの個体を確認できていたカワアナゴを今回確認できませんでした。本種は、あまり遡上能力が高くないと思われ、本魚道が有効かどうか不明で、更なる調査が必要ですが、少なくなっている可能性があります。小江川汽水の

確認種は、既知種のみで、新たな種を確認できていません。また、アユ3死体を汽水域で確認しました。生きた個体を確認できなかったことから、本河川ではすでに寿命となったものと思われる。



式見川支流



鹿尾川汽水域



小江川汽水域



クロヨシノボリ(式見川)



ヒメヌマエビ(鹿尾川)



ヒナハゼ(鹿尾川)



ヤマトヌマエビ(式見川)



ニホンウナギ(小江川)



アユ死体(小江川)



マハゼ(小江川)

○脇岬海水浴場(脇岬町)：12月16日

脇岬海水浴場にて、打上貝等調査を実施しました。確認種は、94種であり多くなく、砂底に生息する種が主でした。長崎市 RDL 掲載種は、カニモリガイ(県 VU)、ガンギハマグリ(市 NT、県 NT、環境省 NT)などです。また、RDL には掲載されていませんが、オオマテは、長崎市では打上貝としてほとんど確認できない種です。一方、シマメノウフネガイは、北米原産の外来種です。本種は、県内では有明海に面する海域に多く生息していることが知られていますが、本地域には有明海から分布域を拡大、もしくは他海域から放流貝などに混入していたものが定着した可能性があります。



脇岬海水浴場



オオマテ



シマメノウフネガイ

○蚊焼町 鯨浜、鯨浜の南側砂浜、岳路海水浴場：平成 30 年1月7日

蚊焼町の3ヶ所の砂浜で打上貝を中心とした調査を実施しました。鯨浜の南側に位置する砂浜は、鯨浜に比べると小規模ですが、人為的な影響が少ない良好な砂浜です。打上貝の確認種は97種で、周辺の岩礁部に付着・匍匐する種が中心でした。その中でベニガイ、ナミノコガイは、砂底を好む種で、長崎市内では少ないです。鯨浜は、打上貝自体が少なく、種数も16種のみでした。確認種は、周辺岩礁部に付着するイガイ科の種が主です。岳路海水浴場は、打上貝が66種、その他11種の計77種を確認しました。打上貝は、鯨浜の南側の砂浜と概ね同じ種でしたが、チドリマスオを多く確認できています。また、砂浜の陸地側にある石やゴミ等の下にはサツマゴキブリ成虫・幼虫が多く越冬していました。その他、宮崎町の川原海水浴場近くの石の下より、ヒゲブトホソアリモドキを採集しています。本種は、甲虫の一種で、長崎市内では初記録と思われます。



蚊焼町 鯨浜の南側の砂浜



ベニガイ



フジナミガイ



蚊焼町 鯨浜



岳路海水浴場



チドリマスオ